

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第162版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵



元旦の初日の出をお届けいたします。本年もよろしくお願いたします。

## 100年続く理由

「代々続く老舗の皆様は何を大切に働き、そしてなぜ続い

きたのか」そんな問いを胸に、昨年11月下旬、160余年続く老舗和菓子店様と310余年続く蔵元様に理念研修として伺わせていただきました。

見せていただくもの、お話しいただくエピソード一つひとつが代々脈々と受け継がれてきた「智慧」に溢れています。誌面の都合上多くをご紹介しますが、本号では二つのエピソードをご紹介します。

「か」ということについてです。

『過去やってきたことを守り続けるのではなく、その時代の世間様の声をちゃんと聴き、時代に合わせてお役立ちができるように創意工夫をし続けること』

この言葉を聞いた時、子どもたちの姿や社会の様相に合わせて保育を刷新し続ける皆様のことが心に浮かびました。今までの保育環境や行事に囚われず、子ども一人ひとりの

発達を理解し、声をよく聴くこと。そして今必要な環境を創意工夫し続けるということ。やり方に軸足を置くのではなく、子どもの発達や声に軸足を置き続けるということ。

「子ども主体の保育」というのは過去から受け継がれた「智慧」であり、これからは受け継いでいかなければならない「智慧」なのだと感じました。

また私たちカグヤの仕事において、「今までに囚われていないか。お客様の声をどこまで聴けているだろうか」と今の自分達を振り返り、お客様の声が集まる環境づくりへと改善を始める機会をいただきました。

そして、もう一つご紹介したい学びは「応援が集まる働き方」についてです。

『自分の代のことを考えて働くのではなく、次の代のことを考えて働くこと。そうすると誤魔化しが効かないからね』

というお言葉をいただきました。今の子どもたちが当たり前のように環境問題について意識して過ごしているのだからこそ、「環境問題」だけで

なく、「働き方そのもの」もより良くして次の代に渡していきたいものです。

「自分のことばかりではなく、次世代の子どもたちの声を聴こうと行動し、次世代の子どもたちのことも考えて働く」からこそ、仲間や世間様からの応援をいただけるというこの考え方は、私自身にとって「働く」という視座を随分と広げてくださるものでした。

この二つの智慧を支える根底に共通するのは「声を聴く」ということのように感じます。また、「聴く」というのは「相手が話したい事を話す」ことが出来なければ、「聞いたように聴いてない」のかもしれない。お互いが本音を言い合い、耳を傾け聴き合えるには、日頃の業務にそんな環境が仕事内容として用意されていることはもちろん、組織風土にそれらを邪魔するものがないかを見直していく必要性を感じます。

今年は今回の理念研修でいただいた学びを元に、働くということを今一度学び直し、より良い場づくりを目指していきたいと思えます。

(眞田海)

## 子どもと一円対話

先月、ある保育園の子どもたちと「一円対話」をする機会がありました。これまで社内含め大人同士で行ったことは数えきれないほどありますが、子どもたちと一緒に行ったのは人生初めてのことに。

実際に行ってみると、子どもたちが途中でトイレに行ったり、しばらく話出さずじっと座って話を聴くことだんだん飽きてくる子が続出したりと、皆で集中して聴き合う場をつくるのは、なかなか難しいものがありました。

それでも「〇〇ちゃんは竹馬が上手ですごい！」「一緒にホテルを見に行ったのが印象的だった」「みんなとドッジボールしたのが楽しかった」



幼児期の尊重し合い、聴き合う体験が、その後の未来の人生、社会にどう活きるのか楽しみです。

「た」など、1年の終わりに改めてそれぞれの素敵なところを知ったり、園生活での楽しい思い出など振り返るとも貴重な時間になりました。

今は大人も子どももどこか忙しく、話を聴き振り返って味わう時間というのは園でも家庭でもなかなか少ないことと思えます。だからこそ周りに自分の話を聴いてもらう場、他人の目を気にせず自分の思ったことをそのままに話せる場、誰かの声に心を傾けて聴く場。特に心の根っこが育つ幼児期の日常に、そのような場を持つ必要性を肌で実感する機会にもなりました。

先日ある方が「子どもの頃に母親に声をかけると、いつも手を止めて目を見て話を聴いてくれた」と話されていて、聴くことは愛だなぁと感動するものがありました。「聴く」というのは奥深いものですが、私たちも未来にバトンを繋いでいく思いで、聴く姿勢を磨きながら、一円対話のよき場を日頃から大事にしたいと改めて感じています。

(宮前奈々子)

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 0歳児の選択



読んでほしい絵本を自分で決めているからか、親バカかもしれません。が集中して聞いているのが嬉しいです(笑)

保育環境研究所ギビングツリー主催「保育環境セミナー」が、昨年12月に開催されました。講演の中で、0歳から子どもが自ら選択する体験を積んでいくことで、年齢を重ねるにつれ、自分の考えを伝えられるようになるとお話がありました。0歳児の選択の例として、手形を押すスタンプの色選びや、動物と乗り物の絵本どちらを読むでほしいかを尋ね、子どもが決めている

る例などを挙げられていました。我が家には8ヶ月の息子がいます。息子に絵本を読む際、これまでランダムに選んでいましたが、講演での事例のように絵本を並べ、「どれがいい?」と聞いてみると、「どれにしようかな?」と悩んでいるような顔つきから、両手で「これ!」と言わんばかりに選ぶ姿がありました。また、洋服を買いに行った際は、「コアラとクマの洋服どっちにする?」と絵柄を見せると、「こっち!」と言っているかのようになり、コアラの洋服に手を伸ばす姿があり、家庭でできる0歳児の選択は、こういうことかな?と試行錯誤中です。親が決めているのは今回の姿も見られなかったと思うと、0歳児から選択を実践するお話に、保育の専門性の高さを感じました。育児の中でも、子どもが決められる環境づくりを大切にしたいと思います。(奥山卓矢)

## 日本の智と慧

### 春遠からじ

もうすぐ「立春」とはいえ、時折雪が舞う寒い日が続くばかり続きます。ここ近江の冬は鈍色(にびいろ)の雲が低く垂れこめて「どんより」した日が多く、気持ちよくお布団を干せるような陽射しがあまりありません。県外から移って来られた方からは、この時季は心が晴れず「冬鬱(ふゆううつ)」になるともお聞きします。主な原因は日照量の不足と言われますが、そういう意味では、この地の草木にとっても厳しい季節といえるでしょう。しかし、彼らは置かれた場所で懸命に生き、やがて迎



厳しい風の中、厚い雲の下で芽吹のときを待つ木々たち。彼らは、どんな夢を見ているのでしょうか。春遠からじ。(藤堂昌恒)

える春に備え、雪の下でもしっかりと芽吹き準備をしています。本番は「咲き誇る春」かもしれませんが、彼らの生き方においては、そのための「準備の冬」は欠かせません。そう思うと、この時季は私たちにとても、新しい春に備えて内面を整える機会であるのかもしれない。鈍色の雲と雪景色の中で、今年はどうな色彩の四季をイメージできるか。もう少しこの寒さも愉しみながら春を待ちましょか。(藤堂昌恒)

## 一期一会庵

### 生き方の養生

あけましておめでとうございます。本年もカグヤは”子ども第一義”、子どもの憧れる生き方を働き方をみんなで磨いていきたいと思えます。

私は年末からコロナに感染し、久しぶりに長い期間寝込んでいました。回復も遅く、報道では知っていましたが後遺症がこんなにも辛いものなのかと驚くばかりです。こうやって病を得てみて改めて考えてみると私たちは加齢とともに老化していく生き物ですからこの先も病気とうまく付き合っていくしかありません。

中医では男性は8歳ごとに、女性は7歳ごとに気が衰えていくともいわれます。そして人間は生まれながらに持っている「先天の気」と、生まれた後に取り込まれる「後天の気」があるといわれます。まず先天の気は胎児として生まれたときが最も多く、年齢を重ねるにつれて減少していくといえます。これは両親にも

らった元氣のことです。内臓も元氣で、次第に使っているうちに消耗していきます。この先天の気は加齢だけでなく、生活習慣や過度なストレス、病気によってもすり減るといえます。いつかは失われていくものですから、意識的に養生していきながら

ら長持ちさせていくしかありません。もう一つは、後天の気というものです。これは生まれてから生きていくなかで、食物や呼吸によって補充されていくものだといえます。産まれてから死ぬまでに、先天と後天の気をセットで養生して上手に老化していくことで私たちはなるべく末永く健康を保つよう工夫してきたのです。具体的にどうするか、それは「消耗しすぎないこと」と「きちんと蓄えること」からだといわれます。健康を維持するために無理をしない、夜更かしもせず、暴飲暴食などもしない。疲れすぎないように心がけることです。そして日頃の食べ物を工夫すること。清々しい空気を吸って元氣を養うことだといえます。日頃から消化によいものを食べたり、主食をシンプルにして油っぽいものを避けて自然食にしておくこと。呼吸法などもとのえで、いつも穏やかな空気によって養生することなどだといえます。

当たり前のことですが、元氣な時は氣を付けないものも病気になるとその元氣の有難さがわかります。いつまでも健康で活動ができるようにするには、若い時からの養生が必要です。

子どもたちのモデルになれるよう今年も生き方から養生を実践し暮らしフルネスをさらに深めていきたいと思えます。(野見山広明)

## 編集後記



難(南)を転(天)じて 幸多き1年にしましょう!

あけましておめでとうございます。1月を1年の節目として目標を立てる方もいれば、新年度の始まる4月が切り替えと感じる方もいることと思います。どちらにしてもそれを目標に頑張ったり、新しいことを始めたりと、節目が頼りに

なりうまく気持ちが切り替えられることもあるのではないのでしょうか。私たちが皆様のお役立ちのために精一杯努力していきたいと、この節目に気持ちを新たにしております。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(眞田由莉)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

